

News Letter

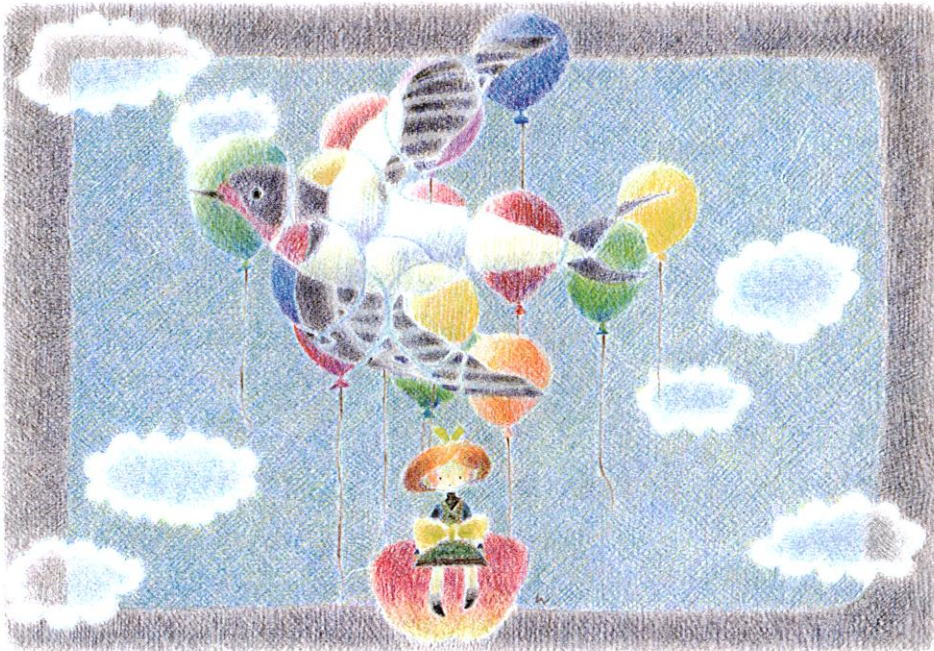
No.12

発行日2015年5月31日

CONTENTS

- ・巻頭言 1
- ・アフターケア相談所en
立ち上げメンバーによる座談会 2
- ・広がる支援の輪 6
- ・子どもシェルター通信 7
- ・おおもと荘通信 7
- ・事務局だより 8

■表紙絵「夏への切符」内村 暁



巻 頭 言

激動の一年

NPO法人子どもシェルターモモ 理事長 東 隆 司



平成26年度は子どもシェルターモモにとっては大変な一年間でした。

ニュースレターNo. 11に新しい施設建物を確保したいと書いた茶屋町荘は、職員2人が7月に同時退職するという事態が発生し、新しく職員を確保することができなかったため、7月末をもって施設の運営を休止し、平成27年1月に廃止しました。

茶屋町荘は、子ども達や職員の居室が狭く、お互いのプライバシーの確保が難しいという構造上の問題があった上に隣近所から苦情を受けることもあり、職員にとって落ち着いて子ども達のケアに取り組むことが困難な状況にあったと思います。

ともあれ、茶屋町荘に受け入れていた子ども達は、関係機関のご協力を得て、なんとか無事、次の行き先を確保することができました。

茶屋町荘を休止した影響で子どもシェルターに受け入れた子どもの次の行き先を確保することが困難となり、3人の子どもが数か月間継続して入所する状態となりました。

そのため、新たな入居の申込みを断わらざるを得ないケースが何件か続きました。

子どもシェルターは、ニュースレターNo. 11でも書いたとおり、前年度の新規受け入れが定員の2倍に達しなければ、今年度の措置費を減額されることになっているため、平成27年度も約500万円の赤字を覚悟しなければならない状況です。

幸いなことに、平成26年度中に株式会社ベネシード、チャリティゴルフの会、フロムビゼン（備前焼作家の有志）をはじめ、多くの団体、個人の皆様から多額のご寄付をいただくことができ、赤字をなんとか穴埋めできる見通しが立ちました。

女子用の自立援助ホームについては、平成27年度中に立ち上げたいと考えていたところ、岡山市内に適当な物件が見つかりました。

物件確保のために、個人で資金を調達し、購入の上、子どもシェルターモモに賃貸してくださるという方が現れたので、ありがたく申し入れを受けることにしました。

職員の確保ができ次第、早期に女子用の自立援助ホームを開設したいと考えています。

生きていくモチベーションを 一緒に楽しく養える場所に

モモではシェルターや自立援助ホームを退所した後も、子ども(若者)が求める様々な支援をしています。平成26年度はNPO法人杜の家「コドモノミカタ」ワーキングチームの方々と一緒に、児童養護施設などで育った若者に向けてもアフターケアをする、アフターケア相談所enを立ち上げました。そのメンバーで、事業を通じて見えてきたことや今後について語り合いました。

■西崎 本日はお集まりいただき有難うございます。
子どもシェルターモモは平成21年に自立援助ホーム
やシェルターを立ち上げ、翌年からフォローアップ
(アフターケア) 事業を始めました。

モモを退所してひとり暮らしを始めた子どもたちは、様々な困難にぶつかります。家庭内で教わったり覚えたりするような日常生活の知識が少なく、たとえばお金の使い方がわからない、物をすぐ失くしてしまう、行政の窓口で一人で行けない、請求書が届いても見方がわからない。保険証を持ったとしても使い方がわからない場合もあります。

そこで、退所後の生活支援もモモが担わなければならない重要な役割と考え、居場所づくりや学習支援を中心に、子どもたちの相談に乗ってきました。

ただ、これが家庭の中で育っていないことから生じる困難であるなら、児童養護施設等に入所していた子どもたちもまた同じような困難に直面しているのではないかと、ずっと気がかりだったのです。



大森 浩史さん
(NPO法人 杜の家 理事長)
地域で暮らす障害者の事業所を
運営

岡山県内の児童養護施設の実態を調べてみたいと思っていた矢先、NPO法人杜の家「コドモノミカタ」ワーキングチームとつながることができ、同じ志をもつ人たちとenを立ち上げることができたのは嬉しいことでした。

■大森 私たちのほうも、シェルターモモが

一緒にやりましょうと言ってくださって本当によかったです。私たちは専門家の集まりではありますが、支援活動の土台をもっていません。モモと組むことでようやく進んでいける状態になり、実際に、当初私たちが考えていたことが動き始めました。

——支援のための勉強会がきっかけ

■西崎 「コドモノミカタ」ワーキングチームを立ち上げられたきっかけは何だったのでしょうか。

■大森 児童養護施設出身の友人から経験談を聞いたことが大きいですね。たとえば、施設では子どもたちはエアコンの操作をしないので、ひとり暮らしを始めてもエアコンは消さなければいけないものだとか、高額の電気代の請求が届いたとか。

■赤木 私は児童養護施設に勤めていた経験があるので、彼の話聞いたときに「そういうこともあるかもしれない」と感じました。

施設の職員は精一杯がんばっているし、子どもたちも明るく楽しく過ごしているところが大半です。でも、退所後にひとり暮らしをするうえで必要な知識を全部教えることはできていないかもしれない。反省するところもありましたね。

■大森 話を聞かせてくれた友人は、自分がいろいろ苦労してきたので後輩のために何かやりたいと考えていて、私たちもそれに共感しました。そこで、まずは仲間を集めてみんなで勉強会をしようということになったのです。

■湊 恥ずかしい話ですが、私は児童養護施設について詳しいことは何も知りませんでした。出身者の話を聞かせてもらって、すごい驚きがあったし、いき

なり働くといっても難しいところがあるだろうなと最初に感じました。

■西崎 勉強会はどのくらい開かれたのですか？

■大森 月に1回、半年間くらいでしょうか。現場で子どもたちに関わっている方に話を聞いたり、県外のアフターケアの取り組みを調べたり。そのうちに人や情報がつながって、平成25年の岡山市の市民協働推進モデル事業に「施設児童退所支援のための実態調査」が採択され、岡山市の児童養護施設出身者にはどんな困り事があるのか調査しました。これがきっかけになってシェルターモモとの協働が実現したわけです。

—実際の生活に即したセミナー内容

■西崎 平成26年度は、岡山市市民協働モデル事業「児童養護施設等退所前『学び』事業」として岡山市内の児童養護施設等に入所している15歳から19歳の子どもを対象にしたセミナーを6回行いました。やってみていかがでしたか。

■湊 1回目が「先輩たちのはなし」だったのがよかったと思います。子どもたちの身近な人の話だったので、その後のセミナーにも子どもたちがすんなり入っていったのではないのでしょうか。話の内容もとても具体的で、全体の導入になりましたね。

■西崎 湊さんには「仕事のはなし」の講師をお願いしました。高校や大学でセミナーをする時と何か違いがありましたか？

■湊 内容的にはほぼ同じですが、複数の高校から生徒が集まる合同セミナーよりも、いくつかの施設から子どもが集まった今回のセミナーのほうが、子ども同士の一体感が大きいように感じました。

■西崎 湊さんのセミナーの導入は素晴らしかったですね。遊びの中で、仕事は協力し合うことが大事なんだということを体感できたようです。

■大森 どのセミナーも、子どもたちはまじめに聞いていましたね。ただ、実際にやってみると子どもたちにはこんなところが伝わらないんだと驚くことがありました。それは、私たちがまだ子どもたちを理解できていなかったということでもあります。その落差が一番大きかったのは「お金のはなし」でした。

■西崎 一緒に作業をしてみて、子どもたちはお金というものにこれほどイメージがわからないんだと、あらためて驚かされましたね。

■西井 施設では、店で食材を買ったり、自分たちだけで外食したりという経験ができないようです。だからものの値段がわからないのかもしれませんが。家庭なら「今月はちょっと苦しいから節約ね」とか、



湊 雄貴さん
(キャリアコンサルタント・ラジオMC)
備前東高校2年在学中に映画
「あかね色の空を見たよ」に主演

【平成26年度 児童養護施設等退所前『学び』事業】

	第1回	第2回	第3回
内 容	「先輩たちのはなし」	「仕事のはなし」	「お金のはなし」
日 時	7月27日(日) 10:00～11:30	8月24日(日) 10:00～11:30	9月6日(土) 10:00～11:30
場 所	岡山市勤労者福祉センター 4階 第2会議室	きらめきプラザ2階 研修室	きらめきプラザ6階 ウィズセンター会議室
講 師	児童養護施設等を退所した20代の若者 4名	湊 雄貴さん (キャリアコンサルタント)	陣内 恭子さん (ファイナンシャルプランナー)
参加者	子ども：5名、職員：4名	子ども：16名、職員：3名	子ども：11名、職員 3名
	第4回	第5回	第6回
内 容	「保険・年金のはなし」	「契約のはなし」	「かんたんクッキング」
日 時	10月11日(土) 10:00～11:30	11月22日(土) 10:00～11:30	12月6日(土) 10:00～14:00
場 所	きらめきプラザ6階 ウィズセンター会議室	きらめきプラザ2階 研修室	岡山市立東山公民館 調理講座室
講 師	中野 花都江さん (社会保険労務士)	藤井 嘉子さん (弁護士)	山本 由理さん (岡山県栄養士会管理栄養士) 他1名
参加者	子ども：10名、職員：4名	子ども：6名、職員：3名	子ども：5名、職員：1名

家の中の雰囲気からでも子どもたちがお金のやりくりを感じる機会があるでしょうけれど。

赤木 給料日前になると夕食のメニューが一品減るとか（笑）。高校生くらいになると、お父さんが給料をいくらもらっているか、だいたい知ってる子もいるでしょう。そんな現実的な話を施設の中でもできるといいし、学び事業ではそういう部分の開示もできたといえるかもしれません。

西井 もう少し具体的な話を聞きたかったという感想もありました。保育士を目指す子が多かったのですが、職員の方の給料の額を教えたり、家計の実際を話したりとか。

赤木 今年度は、もう少しリアリティのある話にしてもいいですね。実際の生活にどんなお金がかかるのか具体的に。

西崎 クッキングの前に、自分たちで買い物に行くところから始めるというのもいいですね。そうすればものの値段もわかってきます。

赤木 肉じゃがをつくるのに高級和牛を買ってきてもいい（笑）。

湊 他の材料が買えなかったじゃないか、じゃあどうする？ と。そんな経験も貴重でしょう（笑）。

——ネットワークの広がりや新たな気づきも

大森 「保険・年金のはなし」「契約のはなし」は理解が難しいようでしたが、子どもたちの年齢を考えると仕方ないかなという感じです。

西崎 でも、「困ったらとにかく相談すること」というキーワードは伝わったようですね。

大森 目の前に控えている「仕事のはなし」は子どもたちの意識が高かった。「かんたんクッキング」は、みんな上手にできていたようです。施設へのアンケートでも、家事スキルはしっかり教えているという回答が多かつ

たし、子どもたちも困っていないということがわかりました。

西崎 いろいろな専門家の方を講師にお願いしたことで、ネットワークも広がりました。

管理栄養士の方にはまたお願いできそうです。

「保険・年金のはなし」の講師を務めていただいた社労士の方は、子どもに話すのは初めて

だとおっしゃっていました。こういう子どもたちがいることを知ってもらう機会にもなりましたね。

西井 そのセミナーに参加してくださった施設の先生から聞いたのですが、帰りの車の中で子どもたちに「先生は大変だなあ、労働時間は8時間と決まっているはずなのに」と言われたそうです。

赤木 職員がずっと一緒に暮らしているのは当たり前だと思っていた子どもが、労働者として先生を見てみたら、大変なんだなあと思った。おもしろい視点ですね。

西崎 子どもたちは、セミナーに参加することで何らかの発見をしてくれたのでしょうか。私たちにとっても、気づかされることの多い事業でした。

西井 講座を開いたのは土曜日と日曜日でしたが、休日にこれだけの子どもたちがよく集まってくれたなあと思いました。

西崎 各施設が子どもたちに働きかけてくれたおかげですね。施設の職員だけが子どもたちに関わるのではなく、外の人たちに委ねて、それも子どもの経験の一つと位置付けていただけたのは、とてもありがたかったと思います。

——「en」をどのように伝えていくか

西崎 平成27年度も岡山市市民協働モデル事業として『学び』事業と「アフターケア事業」を続けていきますが、施設等を退所した子どもたちへ「アフターケア相談所en」を、どういう形でどこへ伝



赤木 剛さん
(元児童福祉施設職員)
岡山市内の児童養護施設等に
平成21年まで勤務



西井 葉子さん
(NPO法人 子どもシェルターモモ
事務局員)

えていくかという課題があります。この1年の感触では、まだ関係機関にも情報がじゅうぶん伝わっていないようです。

■大森 地域生活支援センターや地域定着支援センター、就業生活支援センター、それから保健センターなどにも広報してみてもいいのでしょうか。

■赤木 大切なのは広報と実績ですね。こういうことができたという、もう少し明確なものが必要かもしれません。

■大森 事例を通して少しずつ広がっていくのでしょうか。生活支援はどうしても手薄になるので、そういうところをお手伝いするという形でつながっていくのもいいかもしれません。この事業の必要性については、行政のほうでもしっかり感じてくださっていると思います。

■西崎 enが立ち上がり、社会的に必要だと評価されてきていることは、とてもありがたいですね。今のところは施設を出た子どもたちに限っていますが、社会全体を見ると、施設にいたかどうかということとはさほど重要ではないように思います。

■大森 家庭が崩壊して機能していない場合も考えられます。対象は、帰る場所のない若者ということになるのでしょうか。

■湊 家庭で育っていても、なんの社会性も育っていない子どももたくさんいるようです。

■西崎 そうですね。子どもの貧困が大きな問題になっていますし、若者の生活困窮という課題でも、いづれセーフティーネット的な役割も果たすのではないかと考えています。行政でアフターケア事業が予算化されるように働きかけを続けて、支援の必要な子どもや若者が同じ社会の中にいるんだということが社会的に認められるようになればいいですね。

——「助けて」と言える強さをもって

■湊 私はおもに高校生や大学生の就職支援に関わっているのですが、今の10代・20代の人たちは、施設で育ったか家庭で育ったかに関係なく、人に頼ることがすごく難しいようです。「自分は今困っているから助けてほしい」ということを言わない、言えないのです。

失敗するくらいなら最初からやらない、という子も多いですね。できないのではなく、やらないのだという予防線を張っている。

私は、このセミナーを通して子どもたちに「助けて」と言える強さをもってほしいということを伝えたいと思っています。

■赤木 すべてのセミナーに一貫したキーワードを設けてもいいかもしれないですね。たとえば「困ったときには相談に行こう、あきらめないで」とか。

■湊 「あきらめるな」というのは大切だと思います。世の中にはいろんな人がいて、いろんな場所があって、断られることもよくあることだし、助けてくれる人も必ずどこかにいる。enもその中の一つでありたいですね。

■赤木 児童養護施設出身の人の話という、あの頃はつらかったとか、今こんな苦勞をしているという話になりがちだし、実際そうなのかもしれません。

でも、そんな中でもここが子どもたちにとって楽しい場所であればと思います。苦勞するかもしれないけれど楽しいことだってある。楽しくするためにはどうすればいいか、そういうことも一緒に考えていきたい。そのためには私たちも目線を下げなければいけないと思っています。

■大森 お金のことをもっと実感できるよう工夫したり、保険・年金はQ&Aにしたり、楽しく笑いながら子どもたちの印象に残るような講座にしていきたいですね。

■赤木 ここの人たちは楽しいなと思われたいですよね。なんだか楽しくなったなと思えるのも、生きていくモチベーションの一つでしょうから。

■西崎 今年は、セミナーの楽しい雰囲気を施設の子どもたちに伝えていきたいですね。ありがとうございます。

(文責：平島 智子)



西崎 宏美さん
(NPO法人 子どもシェルターモモ
副理事長)

広がる支援の輪!

第6回子供達のためのチャリティーコンペで多額のご寄付をいただきました!

県内外で活動する有志・企業が集まり、「自分達で出来る社会貢献を…」をテーマに、特に未来を担う子どもたちをサポートしようと始められたゴルフコンペで、今回で6年目の取り組みです。

今回は全額の1,827,822円のご寄付をいただきました。

また、参加されていた元阪神タイガースの下柳選手と元サッカー選手の水内選手からはお米のご寄付もいただきました。

ご協力くださったみなさま、本当にありがとうございました。



赤い羽根共同募金(テーマ募金) ～「地域から孤立をなくそう」ささえあいプロジェクト～で220万円の助成金をいただきました!



～「地域から孤立をなくそう」ささえあいプロジェクト～
赤い羽根共同募金

あなたのご支援を
お寄せください。

新規自立援助ホーム開設プロジェクト

このプロジェクトは、岡山県内各地に暮らす高齢者や障害者、子どもたちが安心して暮らすための居場所づくりを目的としています。特に、高齢者の孤立防止や、障害者の生活支援、子どもの貧困対策に重点を置いた取り組みを行います。皆様からのご支援により、より多くの人が笑顔で暮らすことができるよう努めます。

1月1日から2月28日までの2ヶ月間、「赤い羽根共同募金(テーマ募金)～『地域から孤立をなくそう』ささえあいプロジェクト～」に参加しました。この募金は岡山県共同募金会のご協力により、募金額に応じて加算して助成されるというものでした。みなさまのおかげをもちまして、モモには目標金額を大きく上回る1,866,439円のご寄附をいただきました。そして、共同募金会からの加算も加えて、合計で2,200,000円の助成金をいただきました。ご協力くださったみなさま、本当にありがとうございました。

今年もチャリティー備前焼販売より多額のご寄附をいただきました!

今年も岡山一番街コンコース広場で、若手の備前焼作家の有志の方々「from bizen」によるチャリティー備前焼販売が3月14日(土)に行われました。

このイベントは、備前焼作家の藤原和氏の呼びかけにより若手を中心とする有志60名の作家の方々が作品をチャリティー価格で提供されるもので、今年で5年目の取り組みです。購入代金は、AMDAと子どもシェルターモモの募金箱へ直接入れていただき、売上金全てを寄附してくだるとい形をとられています。

今年もたくさんの方にお越しいたき、子どもシェルターモモには、215,950円のご寄附をいただきました。

作品を提供くださった作家のみなさま、作品をご購入してくださったみなさま、またボランティアとしてお手伝いいただいたみなさま本当にありがとうございました。



【イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーンに参加しています】

このキャンペーンは、毎月11日に黄色いレシートを、イオンモール岡山の店舗に設置されている専用の投函BOXへ入れると、合計金額の1%が子どもシェルターモモに寄付されるものです。毎月11日にイオンモール岡山でお買い物の際は是非、レシートの投函をお願いいたします。

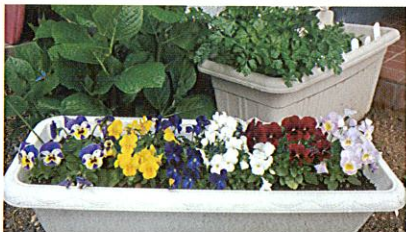
子どもシェルター通信

春を迎えて

今年度は年度当初からずっと慌ただしく賑やかなシェルターでした。年度末が近づきちょっと一息できるかしらと思っていたところ、バタバタと退去が決まり、その準備でますます落ち着かない年度末になりました。

いつもなら今頃のシェルターは、ジャムやマーマレードやお菓子作りの時期ですが、今年度はそんな余裕もありませんでした。もう少し余裕を持って、いろいろ手作りの物を持たせたり、新生活の準備をしたりと、そんな時間が持てたらよかったのになあと少し悔しさが残っています。

急に二人が去ったことで、職員と二人だけの食卓になってしまいました。寂しいので見栄えだけでも



賑やかにとランチョンマットを出してみたりしています。

しかし、シェルターに来る子

どもたちは突然現れて突然去っていくことはよくある事なので気持ちを切り替えていこうと思います。



「難をのがれますように」

新年度からは、スタッフも新しいメンバーが加わります。また新しい子どもが入っているかもしれません。しっかり食べて、ゆっくり寝て、生活リズムを整えて早く巣立ってほしいです。

10代後半の女の子との暮らしは、明るく楽しく美しく…しかし、一方では頭を抱えてヒヤヒヤドキドキする事ばかり。経験は重ねても、子どももおとなも学びの場であることに変わりはありません。

お正月に活けた南天が、今は花瓶の中で新芽を広げています。新生活に向かってシェルターを出ていく子ども達の「難を転ずる」ようにと見守ってくれています。

準備のでき具合や新しい居場所の受け入れ体制には大きな差もありますが、そこは成長過程の子ども達です。彼らの力を信じて、ゆっくり見守ることとしましょう。
(文責：青野 雅世)

自立援助ホーム

おおもと荘通信

高校を卒業

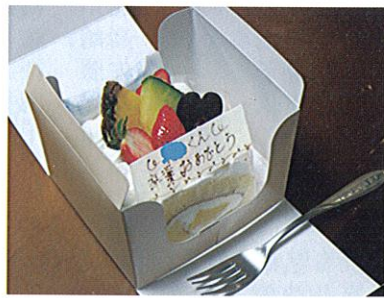
あっという間に1年が過ぎ、また春がやってきました。この春おおもと荘では卒業を迎えた高校生が4名います。

卒業式の日程はまちまちでしたが、卒業式を無事終えて荘に帰えると、卒業証書と共に笑顔で記念写真をパチリ。頂いた花束はしばらくの間台所へ華やかな彩りを添え、みんなの目を楽しませてくれました。

3月下旬には荘の卒業旅行で大阪のUSJに行きました。いつになく早起きをして出かけ、夜遅く



帰って来たため翌日は全員がお寝坊をしていました。留守番の職員にもあれこれと撮った写真を見せながら話を聞かせてくれ



ました。乗ったアトラクションのこと、顔にペイントしたこと、お土産を買ったことそれぞれ楽しんできたようです。

4月から彼等はそれぞれに新しい道を進んで行きます。就職した子は研修中に辛いこともあるでしょう。また現在就職活動中の子は不安でいっぱいようです。

これからの人生の方が長い彼等、自分の力で前向きに歩いていってほしいと思います。巣立った彼等に職員としてはどんなことが出来るのでしょうか。困った時にそっと寄り添い、気持ちが前に向くような後押しができればと思っています。

(文責：堀 陸実)

ボランティアスタッフ養成講座終了



今年度、ボランティア養成講座を右記のプログラムで行いました。児童養護施設退所者を対象にしたアフターケア事業を始めたことから、児童養護施設の現状や退所した20代の若者の講座も加え9回行いました。のべ168名の参加がありました。

回	日時	プログラム
1	10月17日(金) 18:30~20:30	「子どもシェルターモモが目指すもの」 東 隆司 さん(子どもシェルターモモ理事長・弁護士) 子どもシェルターモモ施設責任者
2	10月24日(金) 18:30~20:30	児童養護施設の現状とアフターケア 赤木 剛 さん(元児童福祉施設職員) 津嶋 悟 さん(若松園 副園長)
3	10月31日(金) 18:30~20:30	児童養護施設等を退所した若者のはなし 児童養護施設等を退所した20代の若者4名
4	11月 7日(金) 18:30~20:30	困難を抱える子どもの理解と援助① ～虐待～ 岡山県中央児童相談所 職員 福田 敏隆 さん(岡山県中央児童相談所 総括副参事)
5	11月14日(金) 18:30~20:30	困難を抱える子どもの理解と援助② ～発達障がい～ 大重 耕三 さん(精神科医・岡山県精神科医療センター児童精神科医長)
6	11月28日(金) 18:30~20:30	困難を抱える子どもの理解と援助③ ～性被害・DV～ 森 陽子 さん(被害者サポートセンターおかやま 相談員)
7	12月 5日(金) 18:30~20:30	困難を抱える子どもの理解と援助④ ～非行①～ 廣田 邦義 さん(臨床心理士・元家裁調査官)
8	12月12日(金) 18:30~20:30	困難を抱える子どもの理解と援助⑤ ～非行②～ 今村 嘉治 さん(岡山保護観察所 保護監察官)
9	12月19日(金) 18:30~20:30	まとめ ～感想とシェアリング～

事務局だより

ありがとうございます！ご寄附をいただきました。

個人

板野 次郎
岩田 泰男
奥谷 珠美
影山 美幸
岸本 征子
児島 隆朗
佐藤 悦子
妹尾 佳代
竹内 良二
寺田 和子
中原 隆志
西江 隆
林 弘昭
平松 益美
星野 真知子
三宅 周
安田 瑞穂
山下 敬
横谷 敦子

出原 弥生
上岡 美保子
小倉 哲也
金地 静
北川 喜郎
高崎 和美
佐藤 征二
妹尾 南平
竹重 千尋
頓宮 忍
中桐 達雄
西田 三千代
林 知子
藤井 芳行
堀家 正子
宮本 由美子
山崎 悦子
山本 勝敏
横部 志津佳

逸見 育子
太田 久美
小倉 浩子
金地 操子
来住 由樹
古賀 隆治
島村 和美
高田 武子
武田 きよみ
長井 清子
中澤 タキ子
新田 満穂
東 りえ
藤尾 謙吉
松井 健二
三宅 春恵
山崎 典子
山本 英郎
脇本 敏郎

今井 恭子
大重 耕三
尾崎 早苗
榎原 暁子
國枝 郁美
財津 唯行
嶋村 稔
鷹取 司
田野 昌代
永井 宏
中村 文彦
濱田 弘
平井 昭夫
藤原 佳代子
松岡 修一
森 陽子
山下 飛鳥
柚木 清子
脇本 裕子

入口 優之
奥田 隆之
尾上 知子
神谷 文義
肥田 弘昭
佐川 節子
清水 善朗
竹内 保子
坪田 仁志
永井 律子
那須 知美
林 忠治
平松 敏男
藤原 健補
水田 美由紀
森尾 康子
山下 喜代子
横田 都志子

他 匿名77名、理事・監事10名

団体

株式会社岡ビル百貨店
邑久光明園入所者自治会
CAPおかやま
子供達のためのチャリティーゴルフ
小峠印舗
小橋公認会計士総合事務所
大成化工株式会社
from bizen
株式会社ベネシード
NPO法人保育サポート「あい・あい」スタッフ有志
Western Piano ムジカクラブ グループ風

ご寄付は金額の多寡に関わりなく
下記へご送金頂ければ幸いです。

郵便振替口座 01370-4-52835

特定非営利活動法人

子どもシェルターモモ

(ご送金の際はお名前・ご住所・ご寄付で
ある旨ご記入いただければ幸いです。)